

総括

プラン2025の4年目である2024年度は、基本目標である「安全で快適なくらしと良好な環境を守る」「健全な経営を持続する」「幅広い世代への理解を促進する」を達成するため、予定していた事業の着実な実施に努めました。

事業面では、合計15項目（再掲の1項目を除く）の指標のうち、10項目について、2024年度までの目標を達成しました。

財政面では、下水道使用料収入の減少や老朽化施設の増加による維持管理費及び建設事業費の増加により、厳しい状況が続いています。

今後も効率的な事業執行に努め、計画的・安定的に下水道事業を継続していきます。

I 安全で快適なくらしと良好な環境を守るための取組

【取組の方向性1】下水道機能の維持

※赤字は未達成

取組内容	指標	単位	計画期間(上段:目標値 下段:実績値)				
			2021	2022	2023	2024	2025
下水道施設の維持管理	①下水道本管の目視点検延長 (2021-2025累計値)	km	1,664	3,324	4,984	6,644	8,304
			1,735	3,387	5,005	6,446	—
	②下水道本管の詳細調査延長 (2021-2025累計値)	km	214	426	638	850	1,062
			217	437	659	881	—
	③コンクリート製取付管の詳細調査箇所数 (2021-2025累計値)	か所	5,200	10,600	16,400	22,600	29,600
			5,500	11,464	17,848	24,249	—
下水道施設の再構築	④処理施設の設備修繕台数 (2021-2025累計値)	台	190	400	610	820	1,040
			215	418	618	880	—
	⑤管路の改築延長 (2021-2025累計値)	km	34	70	108	149	193
			32	65	89	114	—
	⑥処理施設の設備の改築を行う施設数 (2021-2025累計値)	施設	9	12	14	18	23
			10	11	13	13	—

- ① 下水道本管の目視点検
- ・管路の状態を把握するための目視による点検

・点検箇所数は計画どおりでしたが、マンホール間の延長が短い箇所を多く点検したため目標の6,644kmに対し、6,446kmの点検となりました。
- ② 下水道本管の詳細調査
- ・管路の劣化状況を把握し、修繕や改築の必要性を判断するためのテレビカメラなどによる詳細調査

・目標の850kmを上回る881kmの調査を実施しました。
- ③ コンクリート製取付管の詳細調査
- ・道路陥没の要因となるコンクリート製取付管の詳細調査

・目標の22,600か所を上回る24,249か所の調査を実施しました。
- ④ 処理施設の設備修繕
- ・水再生プラザ、ポンプ場などの機械・電気設備の修繕

・目標の820か所を上回る880か所の修繕を実施しました。
- ⑤ 管路の改築
- ・詳細調査の結果などに基づく管路の改築

・プラン計画外の都心アクセス関連事業の実施に伴い、管路の改築事業量を調整したことにより、目標の149kmに対し114kmの改築となりました。
- ⑥ 処理施設の設備の改築
- ・水再生プラザ、ポンプ場などの機械・電気設備の改築

・物価高騰や資材不足などに伴い改築事業量を調整したことにより、目標の18施設に対し13施設の改築となりました。

【取組の方向性2】災害に強い下水道の構築

※赤字は未達成

取組内容	指標	単位	計画期間(上段:目標値 下段:実績値)				
			2021	2022	2023	2024	2025
雨水対策	①雨水拡充管の整備延長 (2020:205.0km)※整備開始後の累計値	km	205.8	206.4	207.4	208.4	209.2
			205.3	206.0	207.2	207.8	—
地震対策	②管路の耐震化延長 (2021-2025累計値、管路の改築延長:再掲)	km	34	70	108	149	193
			32	65	89	114	—
	③水再生プラザ、ポンプ場の耐震化箇所数 (2021-2025累計値)※< >は工事未実施	か所	0	0	0	1	1
			<1>	<1>	<1>	<1>	—
	④水再生プラザ、ポンプ場の耐震診断箇所数 (2021-2025累計値)	か所	3	5	6	7	10
			3	5	7	8	—
	⑤下水道BCPの点検回数 (2021-2025累計値)	回	1	1	1	1	1
			1	1	1	1	—

- ① 雨水拡充管の整備
- ・平岸地区などにおける雨水拡充管の整備

・管を布設する工事において、想定外の地中支障物への対応で工期の遅れが生じ、目標の208.4kmに対し207.8kmの整備となりました。
- ② 管路の耐震化（管路の改築：再掲）
- ・目標の149kmに対し114kmの耐震化となりました。
- ③ 水再生プラザ、ポンプ場の耐震化
- ・2021年度に目標を達成しており、引き続き、耐震診断の結果を踏まえた耐震化工事を進めていきます。

※2021年度の実績は、耐震診断で耐震性を有していることを確認し、工事は不要となったものの、耐震性は確保できていることから実績値として計上したものです。
- ④ 水再生プラザ、ポンプ場の耐震診断
- ・目標の7か所に対し8か所について診断を実施しました。
- ⑤ 下水道BCPの点検
- ・下水道BCP（業務継続計画）の内容について点検を実施しました。

【取組の方向性3】公共用水域の水質保全

取組内容	指標	単位	計画期間(上段:目標値 下段:実績値)				
			2021	2022	2023	2024	2025
処理の高度化の推進	①目標放流水質達成率 (単年度値)	%	100	100	100	100	100
			90	100	100	100	—
合流式下水道の改善	②合流式下水道対策率 (2020:70%) ※累計値	%	70	70	100	100	100
			70	100(対策完了)			

- ① 目標放流水質の達成
- ・年度ごとに各水再生プラザで目標放流水質を設定しており、100%（10/10施設）の達成率となりました。
- ② 合流式下水道対策
- ・合流式下水道の改善対策を完了した区域の割合

・2022年度に対策が完了し、目標の100%を達成しました。

【取組の方向性4】下水道エネルギー・資源の有効利用

※赤字は未達成

取組内容	指標	単位	計画期間(上段:目標値 下段:実績値)				
			2021	2022	2023	2024	2025
下水道エネルギーの有効利用	①下水道エネルギーの有効利用による温室効果ガス削減量(2021-2025累計値)	t-CO <sub>2</sub>	990 590	1,980 1,250	3,960 1,910	<b>5,940</b> <b>3,250</b>	7,920 —
下水道資源の有効利用	②下水汚泥の有効利用実施率 ※単年度値	%	100 100	100 100	100 100	<b>100</b> <b>100</b>	100 —

① 下水道エネルギーの有効利用による温室効果ガス削減

- ・汚泥焼却廃熱を利用した発電を実施し、温室効果ガスを削減しました。
- ・蒸気の熱を活用して汚泥を乾燥させる汚泥乾燥機の更新により、5台ある乾燥機のうち1台が使用できなくなる期間があり、通常より乾燥に時間を要し、想定外に汚泥の状態が変化しました。そのため、発電に使用する蒸気を乾燥に用いたことで、発電量が減少し、目標の5,940t-CO<sub>2</sub>に対し3,250t-CO<sub>2</sub>の削減量となりました。

② 下水汚泥の有効利用

- ・改良埋戻材やセメント原料として、汚泥を100%有効利用しました。

Ⅱ 健全な経営を持続するための取組

【取組の方向性5】財務体質の強化

① コストの縮減

- ・改築基本方針に基づき、施設の延命化と計画的な改築を実施し、ライフサイクルコストの縮減に努めました。
- ・10か所の水再生プラザのうち、6か所の運転管理業務を継続して民間企業に委託しました(委託効果額 約3億円/年)。

② 財源の確保

- ・下水道施設の整備に関して国の交付金を活用するとともに、用地の貸付や不要金属の売却による収益(約7千万円)を確保しました。
- ・将来に向けて健全な財政基盤を構築していくため、2025年3月に審議会に対し、「持続可能な下水道サービス提供のための受益者負担のあり方」について諮問しました。

【取組の方向性6】運営体制の強化

① 技術力の維持・向上

- ・多様な内部研修の実施や、日本下水道協会などが主催する研修を活用しました。

② 官民連携の強化

- ・石狩市の下水(4,799千㎡)、汚泥(700t)の受入れを継続して行いました。
- ・PPP/PFIの活用に向けて、設備の老朽化が進んでいる西部スラッジセンター3～5系焼却施設の改築において、DB+0方式で整備する方針に決定しました。

Ⅲ 幅広い世代の理解を促進するための取組

【取組の方向性7】下水道の見える化

① 下水道科学館を活用した環境学習

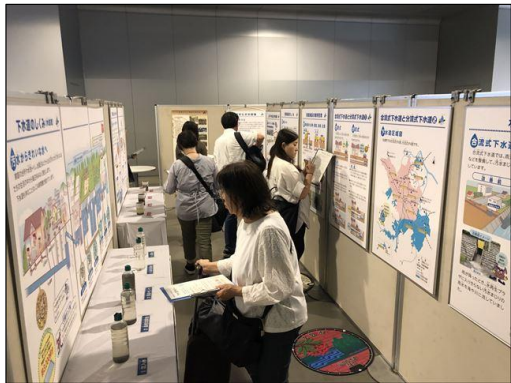
- ・下水道科学館フェスタなどのイベントを実施したほか、小学生を対象とした水道記念館と連携した広報イベントを実施しました。
- ・リニューアルオープン後の平成30年度に次いで過去2番目に多い6.2万人が来館し、累計来館者数はプランの目標値を上回る118万人となりました。
- ・出前授業は、実地とオンラインを合わせて過去最多となる35校2,313人の児童に対して実施しました。

② 効果的な情報発信

- ・効果的な情報発信の取組として、札幌駅前通地下歩行空間で下水道事業パネル展を2年ぶりに開催したほか、5～6月の期間で札幌市環境プラザにおいて、下水道の役割や道内市町村のデザインマンホールを紹介するパネル展示を行いました。



下水道科学館フェスタ

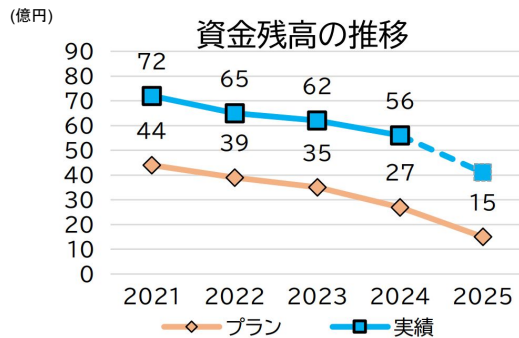


下水道事業パネル展2024

中期財政見通し(2024年度までは決算値、2025年度は予算値+繰越)

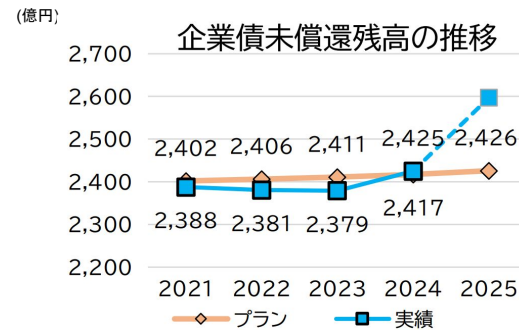
○ 資金残高

2024年度末の資金残高は、2021年度の資金残高が大幅に好転したため、プランと比較して29億円好転し、56億円となりました。



○ 企業債未償還残高

企業債未償還残高は、これまで減少を続けていましたが、プラン策定時に見込んでいなかった都心アクセス道路事業の実施により、企業債発行額が増加したため、プランと比較して8億増加し、2,425億円となりました。



○ 不透明な社会経済情勢

2022年度から続く電気料金などの著しい物価高騰や借入利率の上昇により、2025年度は、維持管理費や支払利息が増加し、急激な資金の減少が懸念されます。

